

平成 26 年度 新入職員歓迎式 理事長訓示

平成 26 年 4 月 1 日

皆さん、おはようございます。本日、皆さんのような夢と希望に満ちた前途有望な方々を、原子力機構の新しい仲間としてお迎えすることができたことは、私たちにとって大きな喜びであり、役職員一同、心より皆さんを歓迎いたします。新入職員歓迎式を始めるにあたり、皆さんへの期待と、職員として心に銘じていただきたいことを申し上げます。

今日、皆さんは、それぞれに喜びと不安の入り混じった気持ちで、ここに参列していると推察しますが、皆さんが配属される職場においても、計り知れない可能性を秘めた新戦力の到着を、大きな期待を抱きつつ、首を長くして待っているところです。

組織の発展には、新しい人材の投入による活性化が不可欠です。特に、原子力機構のような研究開発を目的とする組織においては、皆さんのような若い力の注入がもつ意味はますます大きくなっています。

原子力機構は、我が国唯一の総合的原子力研究開発機関であります。いずれのプロジェクトも重要な課題であり、皆さんにとって非常にやりがいのあるテーマ・業務が多くあるかと思えます。皆さんもこれからは、その分野のプロフェッショナルとして、常に探求心、向上心を持って、各自の「道」を極めて下さい。

ここで、原子力エネルギーを取り巻く国内の状況を紹介しますと、政府が進めている「エネルギー基本計画」の策定手続きは、現在大詰めを迎えているところですが、政府の原案においては、原子力発電について、「優れた安定供給性と効率性を有しており、運転コストが低廉で変動も少なく、運転時には温室効果ガスの排出もないことから、安全性の確保を大前提に、エネルギー需給構造の安定性に寄

与する重要なベースロード電源である」と位置づけられております。原子力エネルギーが国家の経済・生活を支えるエネルギー源として位置付けられたことは非常に重要なことだと考えます。

また、高速増殖原型炉もんじゅについても、政府原案では「これまでの取組の反省や検証を踏まえ、あらゆる面において徹底的な改革を行い、国際研究協力の下、もんじゅ研究計画に示された研究の成果を取りまとめることを目指し、そのため実施体制の再整備や新規制基準への対応など克服しなければならない課題について十分な検討、対応を行う」とされ、政策的な位置づけが明確にされたと考えております。

一方、東日本大震災については、震災及び福島第一原子力発電所の事故から3年が経ちましたが、今なお不便な生活を余儀なくされている多くの方々がおられます。

今回の事故で大きな影響を受けた環境の回復と、事故炉の廃止措置は国家的課題であり、我が国唯一の総合的原子力研究開発機関である原子力機構は、科学的及び技術的専門性を最大限活用して、これらの課題解決に幅広く取り組んでまいりました。引き続き、これら復興に向けた活動を最優先に、組織の総力を挙げて取り組んでいきます。

ただし、このような国難ともいえるべき局面にあって、原子力機構として、「もんじゅ」の保守管理上の不備や、J-PARC（大強度陽子加速器施設）での放射性物質の外部漏えいなどの事故や不祥事を相次いで起こしたことは、国民の信頼を損ねるとともに、先進的研究開発の社会的責務を担っている組織として、誠に痛恨の極みであり、組織として安全文化の欠如を疑われる重大な問題と受け止め、真摯に反省し早急に改善していかねばなりません。

このため、原子力機構では、過去に繰り返し指摘された組織的問題に対する改革も含め、これまでの対応が十分でなかったことを猛省した上、徹底的な原因分析と抜本的対策を検討するとともに、今

後、原子力機構が果たすべき使命を再定義した改革計画を策定し、自分たちが自ら新しく作り直すという自覚を持って、自己変革の痛みを恐れず組織の抜本的改革を断行しているところであり、今年9月までの1年間を集中改革期間として改革を進めています。

そのような時期にあって、原子力機構の一員となる皆さんに、これから業務を進めていく上でぜひ心に銘じていただきたいことが2つあります。

第一に、社会人として、プロであるとの自覚を持って、常に未知の世界にチャレンジする精神を持ち続けて取り組んでもらいたいということです。それぞれが原子力のプロとして、安全確保を大前提としつつ、新たなる分野に果敢に挑戦していただきたいと思います。

原子力の研究開発は、必ずしも順風満帆ではありませんでしたが、皆さんの諸先輩方は、様々な困難に立ち向かい、その問題を一つひとつ解決しながら、今日の原子力機構を築いてきました。皆さん方も、これからは原子力機構の一員として、チャレンジ精神を忘れずに、困難に立ち向かっていく強さを持ち続けていただきたいと思います。

第二に、原子力機構の理念を心に刻んで業務に取り組んでいただきたいということです。原子力機構は「原子力の未来を切り拓き、人類社会の福祉に貢献する」ことを自らのミッションとしています。これは、我々が公的研究開発機関として、エネルギーの安定確保並びに地球環境問題解決への貢献、そして新たな科学技術や産業の創出を目指した研究開発を行い、その成果を社会へ普及することを通じて、人類社会の福祉に貢献することに存在意義があるということを示したものです。

そして、その使命を果たすため、全職員が共有すべき信条として、「高い志 豊かな発想 強い意志」という3つのスローガンを掲げています。皆さん一人ひとりが、夢や希望、やる気を持って今日の日を迎えたことと思いますが、皆さんが高い志、豊かな発想、強い

意志を持って、業務に臨めば、必ずや皆さんの夢や目標は達成できるものと確信しております。

最後になりますが、皆さんは、原子力機構の新入職員として、内外から大きな期待と注目を浴びていることを認識して、常に良識ある行動に心掛けて下さい。その上で、健康に十分注意を払いながら、皆さんの持てる力を存分に発揮し、職場にフレッシュな風を吹き込んでいただきたいと思います。皆さん方のこれからのご活躍を心から祈念して、お祝いと期待の言葉とさせていただきます。

以 上